

ピースツーリズム推進懇談会（第2回）

HIROSHIMA
PEACE TOURISM

令和3年（2021年）3月24日

目 次

1	これまでの取組に対する課題の整理	 3
2	令和2年度下半期に実施した取組	 6
3	今後の取組（意見交換）	 17

ピースツーリズムとは（平成29年度とりまとめ概要抜粋）

市民・行政・関係機関が一体となって、平和関連施設等を円滑に周遊するための環境整備を行うとともに、国内外からの来訪者にヒロシマの被爆の実相等を伝えていくことで、来訪者と市民が平和への思いを共有していくもの。

平成29年度以後の取組：

事業の開始当時の状況：

- ・ 欧米豪等の来訪者を中心に、「平和」をキーワードとして今後多くの来訪が予想される。
- ・ 原爆ドームや平和記念公園以外の平和関連施設等の情報がない。



来訪者の「平和」をテーマにした周遊を促進するため、ピースツーリズム推進事業を立ち上げ、原爆ドームや平和記念公園以外の平和関連施設等のスポットやそのストーリー、モデルルートなどを紹介するホームページの構築やルートマップ（地図）の作成を行った。

ホームページ、SNS

ホームページ、ルートマップ

旅マエ

旅ナカ

旅アト

(1) 令和2年度第1回懇談会で挙げられた課題：

■ ピースツーリズムについて

認知度向上

- ホームページの目的の明確化
- ホームページのアクセス数の向上
- ホームページのリピーターの増加

市民・民間との連携

- 市民や民間を巻き込むような仕組み
- 旅行会社の若手職員に対する研修旅行
- ホームページでの市民や民間の取組の紹介



**市民や民間団体が行う、
平和に関する活動との
連携も必要**

コンテンツ開発・環境整備

- コロナ禍での発信の工夫
- 利用者の興味に沿った情報提供、ストーリー性のあるルート、仕掛け
- 利用者自身が発信できるような仕組み
- ルートの評価
- 被爆遺構の活用
- 移民の歴史についての情報発信

■ 懇談会について

ピースツーリズム推進懇談会において議論の絞り込みが必要

ピースツーリズムとは（平成29年度とりまとめ概要抜粋）

市民・行政・関係機関が一体となって、平和関連施設等を円滑に周遊するための環境整備

②

を行うとともに、国内外からの来訪者にヒロシマの被爆の実相等を伝えていくことで、

①

来訪者と市民が平和への思いを共有していくもの。

③

（２）課題を踏まえた令和２年度下半期の取組：

① 情報発信の強化

- ⇒ Web: SNS参加型キャンペーンの実施
- ⇒ Web: インターネット広告の実施及びホームページの運用
- ⇒ 展示: 広島大学旧理学部1号館に関する企画展の開催
- ⇒ 展示: 本川小学校平和資料館における被爆体験手記の展示追加・リーフレットの改訂
- ⇒ ルートマップ: 日本語ルートマップの改訂・増刷

② 市民・民間との協働体制の構築

- ⇒ 持続可能なピースツーリズムの実現に向けた民間事業者との座談会の開催 (平尾委員)
- ⇒ JATA・ANTA共同企画「広島ピースツーリズムモニター研修旅行」の実施 (高田委員)

③ 来訪者と市民が平和の思いを共有するための取組

- ⇒ 今後の取組を検討するための基礎調査の実施（インターネット調査） (瑠璃委員)

④ その他平和に関わる市の事業についての情報共有

(1) 情報発信の強化

参考資料1

① Web: SNS参加型キャンペーン 思い出の中の「ピース」フォトコンテストの実施 令和3年1月~3月

■ 概要

全世界で新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、従来の日常が失われている中、できるだけ多くの人に「平和（ピース）」について関心を持ってもらい、「ピースツーリズム」を知ってもらうきっかけとして、試験的にSNSを活用したユーザー投稿型のフォトコンテストを実施した。

- キャンペーン：思い出の中の「ピース」フォトコンテスト
- 応募期間： 令和3年1月18日から3月7日まで
- 応募テーマ： 「#ピースな風景」広島市内のあなたが平和を感じる風景の写真
「#ココロのピース」 普段の生活中で心の平和を感じる写真
- 結果： 合計3,971枚の作品の応募があった。



(上：入選作品はこちら)

(左：フォトコンテストのイメージ画像)

入賞作品一覧

特選

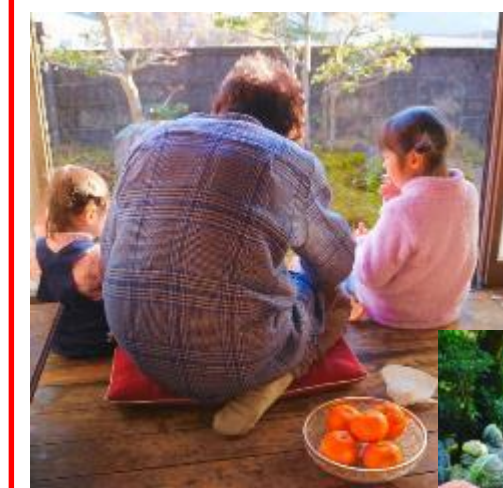
#ピースな風景

準特選

#ココロのピース

特選

準特選



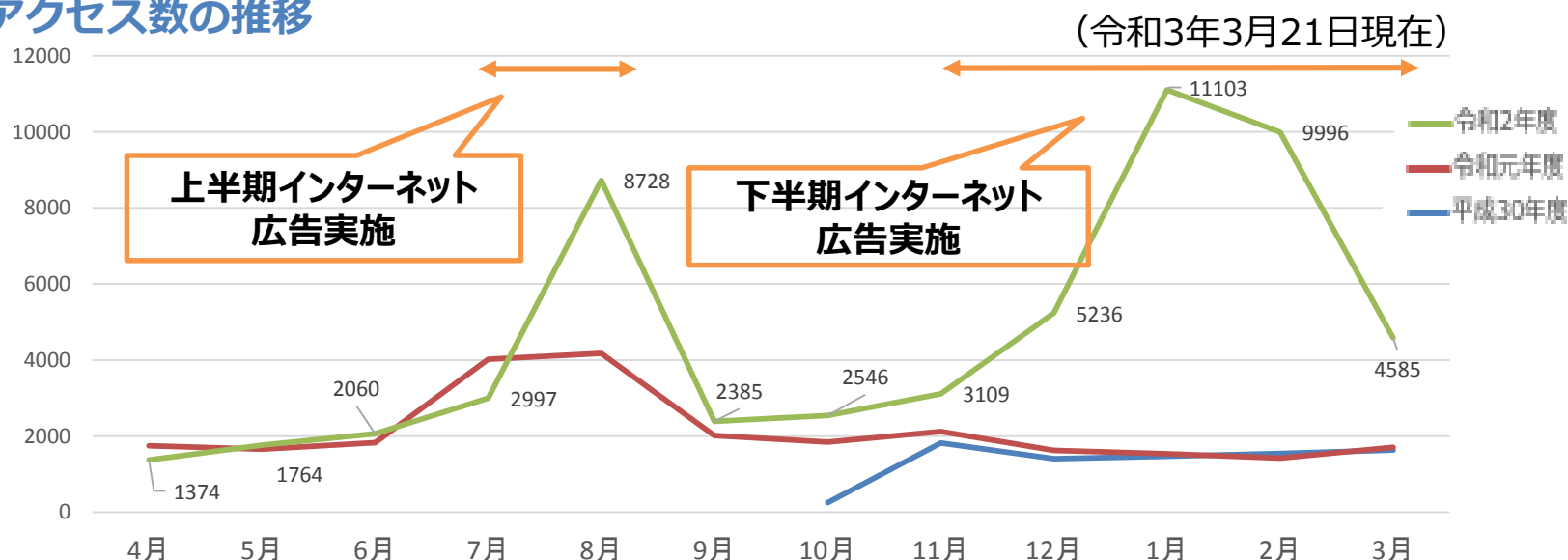
② Web: インターネット広告の実施とホームページの運用状況

令和2年11月~令和3年3月

■ インターネット広告の実施

- 掲載期間：令和2年11月下旬から令和3年3月上旬まで
- 掲載内容：ピースツーリズムのルート紹介（11月下旬から1月中旬）
フォトコンテストの紹介（1月中旬から3月上旬）
- 結果： クリック数 約30,000回

■ アクセス数の推移



■ 成果と今後に向けて

- ・インターネット広告やInstagramによるフォトコンテストによって、アクセス数は次のように増加した。令和元年度：25,690件/年間、令和2年度：55,883件/年間（3月21日現在）。
- ・今後は、ホームページ訪問者にピースツーリズムに参加してもらうため、魅力的なコンテンツ充実に努めていく必要がある。

③ 展示： 広島大学旧理学部1号館に関する企画展でのパネル設置

令和2年11月

■ 概要

- 開催時期： 令和2年11月1日から11月12日まで
- 開催場所： 旧日本銀行広島支店
- 主催： 市民局国際平和推進部平和推進課
- 展示内容等：
 - ・ 被爆資料（壁面タイルなど）、写真パネル、原爆の絵等
 - ・ 広島大学旧理学部1号館の歴史、広島大学や所在する東千田町等に関する資料
 - ・ 広島大学原爆放射線医科学研究所の所蔵資料
 - ・ 広島大学や周辺地域等に関する被爆体験記コーナー（体験記閲覧、動画の上映）
 - ・ ピースツーリズムのパネル展示等
- 来場者数 872名



(ピースツーリズムのパネル)



(パネルの拡大図)



(会場の様子)

令和3年2月～

④ 展示：本川小学校平和資料館での被爆体験手記の展示追加・リーフレットの改訂

■ 展示について

平和記念資料館等の関係機関と連携し、本川小学校等の教員を務めた尾形静子さんが、被爆の体験をつづった手記「原爆の思い出」（レプリカ）を本川小学校平和資料館に展示した。（写真右）



■ リーフレットについて

被爆体験手記を書いた尾形静子さんと本川小学校で
たった一人生き残った児童・居森清子さんについて、新たに
本川小学校平和資料館のリーフレットに掲載し、増刷した。
また、リーフレットには、ピースツーリズムの本川小学校の
ストーリーを紹介するQRコードを追加し、情報発信に努めた。

（本川小学校平和資料館の改訂版リーフレット）

⑤ ルートマップ： 日本語ルートマップの改訂・増刷

■ 主な修正点

- ・平和に関する場所をカテゴリーごとに、別々のマークを設定。
- ・関係施設等の記事を更新。



(2) 市民・民間との協働体制の構築

① 持続可能なピースツーリズムの実現に向けた民間事業者との座談会・ヒアリング調査の実施

令和3年1月～3月

平和をテーマとした観光に関わる活動を実施している個人・民間団体を対象に座談会及びヒアリングを実施し、持続可能なピースツーリズムの実現に向けた取組について意見を収集。
(現在取りまとめ中)

■ 座談会

【出席者 8名】

- 安彦恵里香さん (ハチドリ舎)
- 石飛聡司さん (sokoiko!)
- 住岡健太さん (PCV)
- 瀬戸麻由さん (つむぎ屋)
- 福岡奈織さん (これからの学びネットワーク)
- ポール・ウォルシュさん (GetHiroshima)
- 佐藤亮太さん (湯来観光地域づくり公社)
- 南 知仁さん (JTB)

【進行役】

- 平尾順平さん (ひろしまジン大学)
- 吉原俊朗さん (Hello Hiroshima)

■ WEB座談会テーマ

- 第1回 ピースツーリズムとは？
- 第2回 国際平和文化都市における観光とは？
- 第3回 今後具体的にどのような取組が可能か？

■ ヒアリング調査

【調査先 5件】

- 第三世代が考えるヒロシマ「 」継ぐ展
- アーキワーク広島o
- 中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター
- JTB広島 (修学旅行担当)

など



(Zoom会議の様子)

② JATA・ANTA共同企画「広島ピースツーリズムモニター研修旅行」の実施

令和2年11月実施

■ 概要

- 研修日時： 令和2年11月27日
- 参加者： 県内の旅行会社等20社43名
- 主催： (一社) 日本旅行業協会中四国支部・(一社) 全国旅行業協会広島県支部・広島市
- 研修目的： 旅行会社のスタッフに、平和に関わる広島の観光素材を知ってもらうことで、新たな着地型商品の企画造成等の参考につなげ、それにより広島市への誘客を図る。
- 視察先：
 - 竹原市 大久野島（毒ガス資料館、砲台跡など）
 - 呉市 大和ミュージアム
 - 広島市 平和記念資料館（原田座長の被爆体験証言及び館内見学）
 - 平和記念公園周辺
 - ・本川小学校平和資料館
 - ・旧日本銀行広島支店、袋町小学校平和資料館
 - ・平和記念公園内の碑めぐり



(大久野島)



(大和ミュージアム)



(原田座長による被爆体験証言)

■参加者アンケートから（回答者40名）

<視察先の訪問経験について>

- ・ 平和記念資料館（1名）除き、全員が訪問経験ありと回答。
- ・ 本川小学校平和資料館（34名）、袋町小学校平和資料館（30名）、旧日本銀行広島支店（24名）が訪問経験なしと回答。

➡ 平和記念公園外の被爆建造物を訪問したことがない人が半数以上。

<視察先満足度>

- ・ 大久野島、大和ミュージアム、平和記念資料館について、未訪問者の満足度を集計した結果、未訪問者全員が満足したと回答。

➡ 「平和」について考えるという観点から、旅行会社の目線で満足度の高い施設。

<参加者の意見>「平和」をテーマとした新たな企画を造成する上での課題や感想：

- ・ スポットをつなげるストーリーが必要。
- ・ 加害と被害を上手く融合させられるかが肝となる。
- ・ 平和学習＝暗い気持ちにつながるので、伝えたい内容をいかに伝わる形で表現するか。
- ・ 伝えるという意味では大きな意味があるが、商品としての販売は難しい。
- ・ ターゲットの設定が難しい。
- ・ ガイドの育成が必要。
- ・ 若者の興味関心を引き出せる仕掛けが必要。
- ・ 相談窓口が複数あり、複雑で、調整が難しい。
- ・ 瀬戸内海の海をもっと活用したい。

➡ 今後の取組の参考にしていきたい。



（モニター研修の報告ビデオはこちら）

(3) 来訪者と市民が平和の思いを共有するための取組

インターネット調査の実施

■ 概要

ピースツーリズムに興味・関心がある層の特徴を探るとともに、平和関連施設やルート紹介等の情報発信に留まらず、どのようなコンテンツを提供すれば、多くの人々にピースツーリズムに関心を持ってもらえるかを検討するための基礎調査を実施中。

- 調査対象者： 全国の20～79歳の男女
- 調査対象数： 本調査2,000サンプル（目標）
- 調査方法： インターネット調査
- 調査内容： 属性（性別、年代、居住地など）、旅行への興味やスタイル、ピースツーリズムの認知度、興味・関心度など（設問数15問程度）

■ スケジュール等

- 調査期間： 令和3年3月18日から3月31日まで
- 調査分析： 令和3年度に実施



(4) その他平和に関わる市の事業についての情報共有

① 平和記念公園における旧中島地区被爆遺構の展示整備

参考資料6

② 広島市平和記念公園レストハウスの運用

参考資料7



(改修後のレストハウスの外観)



(地下1階の展示室)

(1) 市民・民間団体等に参画してもらうための提案（案）

参考資料8

■ 座談会参加者・ヒアリング先

団体名	ピースツーリズムに関わる活動
ソーシャルブックカフェ ハチドリ舎	平和記念公園近くのカフェ、毎月「6」の付く日は被爆体験証言者と話をする場を提供。
Sokoiko!	交流型のツアーを提供。広島の中を巡るピースツアーはオンラインでも開催中。
Peace Culture Village (PCV)	レストハウス発着の公園内の有料ガイドツアーや平和学習ワークショップなど開催。
つむぎ屋	被爆体験証言をたどる街歩きなどを不定期で開催。
これからの学びネットワーク	「平和について考えるピースクリエーターになろう」というワークショップなどを開催。
GetHiroshima	外国人の目線で、広島魅力をオンラインなど発信するメディアを運営。
湯来観光地域づくり公社	沢登りなどのアドベンチャーツーリズムや、それを通じた街づくりを行う団体。
JTB（修学旅行担当）	広島市内への修学旅行の誘致、企画、実施などを行っている。
Hello Hiroshima Project!	「顔の見える広島」という思いで、広島駅構内で外国人旅行者を案内する活動。
第三世代が考えるヒロシマ「」継ぐ展	戦争を体験していない世代が、“ヒロシマ”を継いでいく方法を考え、提供。
アーキウォーク広島	広島の中を活性化を目指して、建築公開イベントの開催やガイドブック発行。
中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター	ヒロシマの空白 街並み再現で、昔の広島市内の写真を公開。

(2) 令和3年度の取組（予定）

① 情報発信の強化

- ⇒ プロモーション・動画の制作
- ⇒ SNSを利用した参加型キャンペーン、インターネット広告
- ⇒ 平和文化月間におけるプロモーション

② 市民・民間との協働体制の構築

- ⇒ ホームページにおける市民や民間団体の活動紹介ページの充実
- ⇒ デジタルハリウッド（東京のWEB制作の専門学校）との共同企画を通して、ピースツーリズムの広告用ランディングページの作成

③ 来訪者と市民が平和の思いを共有するための具体的な取組にむけて

- ⇒ インターネット調査の分析、具体的な取組の検討

（３） 意見交換のテーマ：

**持続可能なピースツーリズムの実現のために
市民や民間事業者との連携の可能性や進め方について**

- ・どのような協働の可能性があるか。**
- ・どのようなテーマであれば参加しやすいか。**